

『平成28年度 街なか再生助成金』

助成事業の報告

■ 平成28年度助成事業一覧

事業名	団体名	実施場所
ツインーの橋老朽マンション建替えに伴う 周辺街づくり検討事業	ツインーの橋再生推進 委員会	東京都 港区
小田付 空き家活用プロジェクト	会津北方小田付郷町衆会	福島県 喜多方市
足利中央地区まちなみづくり推進活動	中央地区まちづくり会議	栃木県 足利市
手作りスポーツ&カルチャー	まちなか活性化協議会	熊本県 八代市

事業名称	ツインーの橋老朽マンション建替えに伴う周辺街づくり検討事業
団体名	ツインーの橋再生推進委員会
事施場所	東京都港区

事業概要:

危険な老朽化したマンションの再生に向けて、様々な選択肢の検討を行なった。本年度は、特に、建て替えに際しての実現性の検討を行なった。多様な計画・事業手法を活用した、敷地再編一体化の検討がテーマであった。具体的には、以下の事業を行なった。

- ① 勉強会の開催
- ② 専門委員会の開催
- ③ 行政との協議、打ち合わせ活動
- ④ 街づくりニュースの作成、配布

実施報告:

- ・ 各方面との打ち合わせ、協議の実施。
- ・ 原則毎週第3火曜日に、推進委員会定例会を開催。
- ・ 区分所有者に対する勉強会・説明会を2回開催。
- ・ 専門コンサルタントの勉強会を開催。
- ・ 広報誌(ニュース)の発行。



↑ 説明会の様子



↑ 推進委員会の様子

実施成果:

- ・ 港区との協議打ち合わせ検討資料の作成。
- ・ 区分所有者に対する勉強会・説明会資料の全戸配布、周知。質疑回答書も同時配布。また、勉強会参加者は100人(全200戸)相当となった。
- ・ 専門コンサルタントの勉強会2回開催。(都市計画、合意形成等について)
- ・ 広報誌(ニュース7, 8, 9)及び質疑応答書を合計約700部作成し、全住戸に発送。
- ・ 行政側と街づくりに関する共通イメージが醸成された。計画・事業手法の検討が行われ、具体的な手続きの流れも確認された。

事業名称	小田付 空き家活用プロジェクト
団体名	会津北方小田付郷町衆会
実施場所	福島県喜多方市

事業概要:

震災以降続けてきた空き家の再生に目途をつけ、日常的な活用により地域全体の魅力創出を図るとともに、高校生が歴史や文化・職人技術を体験し学び、生まれ育ったまちに愛着と誇りを育てるため、以下の事業を実施する。

- ① 小田付今昔講和「小田付の街並みの変貌」、小田付昔写真集め、小田付今昔写真展&特別講和「昔写真から分かること」
- ② まちあるき、小田付デザインワークショップ、施工ワークショップ

実施報告:

[喜多方今昔物語](喜多方桐桜高校エリアマネジメント科3年生)

- ① 6月 企画立案(36名・6班)
- ② 7月 企画選定 ⇒ 「喜多方今昔物語」を選定
- ③ 9月7日 小田付地区へのプレゼンテーション・協力要請
- ④ 9月26日 講義「文化財について」(東京藝大 長尾教授)
- ⑤ 9月～10月 高校生による古写真収集、聞き取り、現在の風景写真撮影
- ⑥ 10月～11月 調査事項に関するパネル作成
- ⑦ 11月・12月 パネル展「喜多方今昔物語」(桐桜高校文化祭、喜多方市役所市民ホール)

[空き家・空き地再生プロジェクト](喜多方桐桜高校建設科3年生 5名)

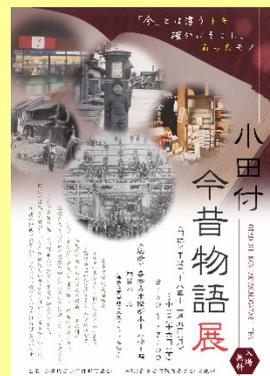
- ① 6月 まち歩き・「絵本の蔵」活用に向けた企画立案
- ② 7月～8月 外水道デザイン 設計図作成(壊れていた外水道のデザイン)
- ③ 10月～11月 レンガ積みワークショップ



↑プレゼンテーションの様子



↑レンガ積みWSの様子



↑今昔物語展のチラシ

実施成果:

[喜多方今昔物語]

- ・ 高校生が地区を歩き、古写真を収集し当時の暮らしぶりを学ぶことによって、まちなみや人々の暮らしの変移を知り、喜多方地域の歴史や伝統に愛着を育むことができた。また、企画を通して、新聞やテレビなどのメディアに取り上げられることで、自分たちの活動の社会意義を自覚し、誇りを持つことができた。

[空き家・空き地再生プロジェクト]

- ・ 東日本大震災以降の取組みを引継ぎ、空き家の再生に向けて何ができるのかを考え、絵本の蔵の壊れていた外水道を修復するために、地域の伝統工法であるレンガ積みのワークショップを行い、レンガ積みの伝統工法を学びながら、幼い子供たちでも安心して使える外水道を作ることができた。
- ・ 地域にとっては、喜多方の伝統的建造物である蔵に、幼いころから愛着を育てる場として、高校生にとっては、伝統技術を学びながら自分たちで作った外水道が地域の未来に活かされる喜びを感じてもらえるものとなった。

事業名称	足利中央地区まちなみづくり推進活動
団体名	中央地区まちづくり会議
実施場所	栃木県足利市

事業概要:

市の区画整理事業の再開に合わせ、地区のまちづくり組織を活用した意見交換・交流の場づくりや、地域資源を生かした街並み形成のルール作りなど、地区の一体的なまちづくりを進めるため、以下の事業を行った。

- ① 中央地区まちづくり会議における勉強会の開催
- ② 中央地区のまちなみづくりの検討

実施報告:

- ① 中央地区まちづくり会議における勉強会の開催
 第1回:平成28年9月1日(木) まちなみづくりWS「ワークショップの目的・進め方と意見交換」
 第2回:平成28年11月11日(金) まちなみづくりWS「まちなみづくりの方向性検討」
 第3回:平成29年3月1日(金) まちなみづくりWS「中央地区まちなみ憲章(たたき台案)の検討」
- ② 中央地区のまちなみづくりの検討
 第1回:検討の手がかり・アイデアカードのワークショップ
 第2回:目指すべき目標や景観づくりの方向アイデアワークショップ
 第3回:中央地区まちなみ憲章(たたき台案)
- ③ まちづくりニュースの作成
 第1号:第1回ワークショップ結果と第2回開催予定等について(H28.10 発行)
 第2号:第2回ワークショップ結果と第3回開催予定等について(H29.1 発行)
 第3号:第3回ワークショップ結果と憲章(たたき台案)等について



↑ 勉強会の様子



↑ ワークショップで出された意見



↑ まちづくりニュース

実施成果:

- ① 中央地区まちづくり会議における勉強会の開催
 ○勉強会の参加者数(15名以上)⇒ 第1回勉強会参加者数:18名
 ○勉強会の継続以降の増加(アンケート調査)⇒ 継続意向 71.4%から95.2%に増加
 ・勉強会を通じたワークショップの開催により、地区住民の意見交換の場の創出と、住民意識の向上の機会として一定の成果をあげることができた。
- ② 中央地区のまちなみづくりの検討
 ○中央地区まちなみ憲章(たたき台)の作成⇒ 第3回勉強会において憲章(たたき台)を了承
 ○まちなみづくりへの参画意向(アンケート調査)⇒ 関心度 61.9%から81.0%に増加
 ・地区住民の様々な意見やアイデアが出されたワークショップ結果等を踏まえて、「中央地区まちなみ憲章(たたき台)」を作成することができた。

事業名称	手作りスポーツ&カルチャー
団体名	まちなか活性化協議会
実施場所	熊本県 八代市

事業概要:

子どもたちが他校区の子供、地域の大人たちとの交流を通して、将来グローバルな活動をするための基礎コミュニケーション能力を身に着けるような場所を提供できる組織づくり・空間づくりを行うため、以下の事業を行った。

- ①『街中で卓球台を作ろう。』
- ②『自作の箱で「一箱古本市」を開こう。』

実施報告:

- ①『街中で卓球台を作ろう。』

開催日:平成28年9月17日(土) 9時~16時

当日は、クルーズ船来航客も多く、海外からのお客様が立ち寄られ、賑わいが生まれた。

- ②『自作の箱で「一箱古本市」を開こう。』

- 第1回開催(ワークショップ付)

【1日目】「手作りの箱を作ろう」平成28年10月1日(土) 9時~13時

・開催場所:がらっぱ広場

【2日目】「ひとはこ古本市」平成28年10月8日(土) 9時~15時

・開催場所:本町1丁目アーケード一帯

- 第2回目「ひとはこ古本市」平成28年12月11日(日) 9時~15時

・開催場所:本町アーケード内がらっぱ広場周辺

- 第3回目「ひとはこ古本市」平成29年3月26日(日) 9時~15時

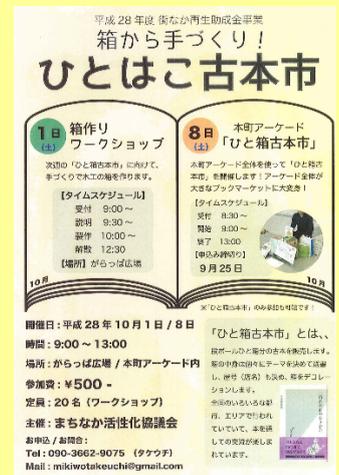
・開催場所:本町アーケード内がらっぱ広場周辺



↑卓球台制作の様子



↑自作の箱制作の様子



↑古本市開催案内

実施成果:

- ①『街中で卓球台を作ろう。』

・制作の工程においては、参加者の多くが初めて体験する作業、初めて使用する工具に興味気味で楽しんでいた様子で、作業中、イベント後にも普段経験できない作業をもっと体験したいとの声が多くあった。作業を行っている段階から通行客の注目を集め、卓球大会においては通行人も一緒になり楽しんだ。

- ②『自作の箱で「一箱古本市」を開こう。』

・街なかにおいて建築は重要なストックであり、メンテナンス、リノベーションなど、周辺住民や利用者の方々に自ら関与するきっかけづくりの可能性の場所の必要性が感じられた。